

事業計画書

(自 令和 3 年 4 月 1 日)
(至 令和 4 年 3 月 3 1 日)

I 事業の概要

光科学技術の高度化と振興を図り、また科学技術全般の発展と新しい産業の創成に寄与すべく積極的に事業を推進する。

1. 調査・研究事業

学術的・社会的に要請の強いテーマを採り上げた研究会を開催する等、光科学技術の向上に資するような事業活動に努める。

2. 顕彰・助成事業

秀でた研究者の顕彰、大学・研究機関等における光科学技術の研究に対して、その促進と研究者の育成を図るために研究資金の助成を行う。とくに未知未踏領域に取り組む研究への支援を行うことに努める。

3. 普及啓発事業

事業の実施で得られた情報・研究成果等を広く公開することに努め、また一般市民に対しても光科学技術についての知識を深めてもらうよう普及啓発に努める。

4. 奨学金事業

光科学技術関連分野において博士学位の取得を目指す優秀な学生が、学業と研究に専念できるように、奨学金を支給して経済的な支援を行う。将来の光科学技術関連分野を担う人材育成に寄与するように努める。

5. 交流・協力事業

他の各種機関・研究者とも交流を図り、光科学技術を通して科学全般の発展に寄与するよう努める。

II 具体的事業内容

1. 光科学技術に関する基礎的な調査・研究

(1) 光科学技術に関する研究会の開催

① 農業・工業原材料生産と光技術研究会の開催

世界の人口増大に対する食糧の確保という観点にとどまらず、工業原材料の生産という視点にも立った新しい農業、生物生産産業を目指すために光技術を用いたいかなる研究・技術開発が必要かを議論する。

② 先端フォトンクス国際シンポジウム(iSAP Hamamatsu)の開催

国際的で多様なバックグラウンドを有する研究者が集まる場として、先端フォトンクス国際シンポジウム(iSAP Hamamatsu: International Symposium on Advanced Photonics)を開催します。このシンポジウムは、光にまつわる最先端の研究成果を共有し議論を深めると同時に、若手研究者の交流促進も大きな目的の一つとしている。

(2) 光科学技術に関する基礎的な調査

① 委託調査研究の実施

「レーザー科学技術の将来」を調査研究課題として実施する。これらの基礎的な調

査研究は広範囲の分野に革新をもたらすための重要な研究であり、他の幅広い分野の研究に資するところもきわめて大きいと考えられることから、光産業創成大学院大学に委託し、調査研究を実施する。

2. 光科学技術に関する秀でた研究者の顕彰、及び研究への助成

(1) 秀でた研究者への「晝馬輝夫 光科学賞」の授与

「晝馬輝夫 光科学賞」として光科学技術に関する秀でた研究者を顕彰する。

(2) 研究への助成

大学・研究機関等における光科学技術に関する研究に対して研究資金を助成し、研究の促進と研究者の育成を図る。とくに未知未踏分野に取り組む研究を発掘し、支援を行うことに注力する。

募集テーマ：【第1課題】光科学の未知領域の研究 —とくに光の本質について—

【第2課題】光科学技術による生命科学分野の先端研究

3. 光科学技術に関する普及啓発

(1) 浜松コンファレンスの開催

毎年文化の日に因んで開催する。光科学技術は産業の基盤技術であり、かつ社会生活においていかに利用されているかを一般市民に分かりやすく解説するとともに、人類あまねく健康で幸福な世界を築こうという理念を広げる狙いで実施する。

(2) 講演会の開催等による普及啓発

研究会のほか講演会等を開催し、研究者のみならず一般市民の光科学技術に対する啓発に役立つよう努める。

(3) 研究成果報告書、講演録等の作成および配布

研究成果の報告書、講演会の講演録等を作成および配布し、研究に資するとともに普及啓発に努める。

4. 光科学技術関連分野を専攻する博士後期課程学生への奨学金支給

令和2年度に募集を行った令和3年度採用奨学生、及び令和4年度採用奨学生について選考を行い、採用3名（令和3年度採用奨学生）、内定3名（令和4年度採用奨学生）を決定し、令和3年度採用奨学生への奨学金の支給を開始する。また、令和5年度採用奨学生3名の募集・選考・内定を行う。

5. 光科学技術に関する関係機関等との交流及び協力

各種研究機関・研究者とも交流・協力を図り、光科学技術に関する知識の収集と情報交換に努める。

以上